

ルユへ、豆腐ノカスバカリクラハレタルト也、大ニ豆腐屋ノ主人世話ヤキタルユへ、徂徠祿エラレタル後、二人扶持ヤラレタルト也、

〔窓の須佐美〕横田甚右衛門、百人組の頭にてありし時、與力の許に年久しく召仕ける僕の心變して盜をなして遁んとするに、見附て折ふしゆあみしけるに、脇差を取て抜打に切けるが、少し疵附て遁けるを、直に追かけ行て、四五町ばかりにて、辻番へかけ入けるを追付て、右のよしを語り、此ものを渡して給へと云ければ、あか裸にて脇差拔身持たるなれば、狂氣したるならんと、皆おもひけるほどに、家の役人出合て、なか／＼わたさず、御目付へ届などしける、召仕なども追々來り、同組與力皆來りぬれど、衣服の心附ざりしかば、猶裸にてありける程に、屏風にて圍ひなどつけり、偏に罪人のよふに思へり、かくて此事横田の許へ聞へければ、その儘にては事濟まじとて、自身にて營して御目附へ逢て、われら組に紛れなく、手討したる事分明なれば、我等方へ受取て吟味すべし、公邊の沙汰に及んでは、我等一分立不申候とありければ、今更いたしかたなかるべし、さらば我等申達して願んとて、若老中へ右の理り、細かに達しられけるほどに、頭の申さる事なれば、その意に任せられ候へとありしかば、直にその辻番へ往て、御歩行目付の吟味し居たる所にて、これはわれら申達し、事濟候間、此かたへ受取候はんとある中に、御目付よりもそのむね申來りけるにや、思ふまゝになりければ、すなはち宿所へ歸りし、彼僕は改て手討にし、何事なく事濟けり、初のもやうにては、亂氣になりてんに、横田氏の器量にて治りぬるほどに、組の與力同心感慨に堪ず、何事にもあれかし、この厚恩を報ひなんと、常に申あひける、かくて後横田氏の宅火災にかゝりて、残りなく焼けり、殊にかねて貧しく、漸圍ひなどしけるほどに、與力の輩相談して、金貳百兩持參し、御造作のかたはしにも成候へかしと申ければ、横田氏大に感じて、おのおの、志もだしがたくおもへども、存念もある間、これは請まじき由、懇に云聞せられければ、與